文教厚生委員会会議録

平成２５年１０月３０日（水）
午前１０時００分　　開　会

○澤田勝委員長

おはようございます。文教厚生委員会を開会します。過日の行政視察については、お疲れ様でした。今日は、協議題ということで、閉会中の調査事項について視察の意見を集約したいと思います。まだ、日程的には余裕が多少ありますので、ある程度の方向性を見極めながらの意見集約をしたいなと思っています。配布しました資料の確認をします。

【資料確認】

それでは、協議題に移ります。県外視察の意見集約ということで、昨日には各委員の皆さんに、委員それぞれの意見が記載されたものをお渡しをさせていただきましたので、お目通し頂いているという前提で進めさせていただきますが、各委員それぞれ記入してあるポイントと補足したいことがありましたら、加えていただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、まず小平市からいきます。東京都の小平市については、一言で言えば、放課後子ども教室、下村さんという方のリーダーシップで活動が活発に繰り広げられていると思います。そして、コーディネーターの重要性と、学校の開放と言いますか、先生の関知しない学校の受入れ体制というか、そういうことが重要なんだなと感じました。そして、宇都宮市の方は、中１ギャップの現状をまず数値できちっと捉えていまして、不登校が 3.3 倍に増えたとか、数値で捉えていることがポイントだなと感じました。あとは、小中それぞれの先生方の交流が重要なんだなということが感想です。あとは記載のとおりですので、この程度にさせていただきまして、あとは各委員のポイントですとか、追加がありましたら口頭でいただければと思います。

○鈴木幸彦副委員長

今委員長がおっしゃったとおり、まず私も一番最初に書いたんですけど、地域が学校を支えるという意識が高い地域。もちろん徐々に高くなっていくのもあると思うんですけど、もともとやっぱりそういう最初の基盤というか、そういうのが高い地域であるんだろうなということを思いました。それと当然のことながらリーダーの、異常なまでのと言っては失礼ですけど、そういう熱い想いを持った人が引っ張っていく。そういう人がどんなことを立ち上げるにしても必要なんだなと思いました。今言ったのは、小平市の方で、宇都宮市の方に関しましては、やはり説明の中にもありましたように、子どもたち、保護者の方たちにはもちろん良いことだと思う反面、現場で指揮をしていただく教員の方たちの負担が増えるということで、先生方のすべての賛同が得られるかというとその辺が、非常に難しいところだなということも思いました。それから、半田に置き換えたときに、各小中学校の乗り入れの補充として非常勤の先生を置かれるということで、宇都宮市では両方で１億円の予算ということだったんですけど、規模が違うので半田がそこまであれですけど、そういった予算をしっかり取らないとちょっと難しいところがあるかなと思いました。

○竹内功治委員

まずは小平市の方は、やはりどの事業でもそうかもしれませんが、人材の重要性というのを再認識させていただきました。そのうえで、学校を開放して地域でのボランティアという考えが浸透していることを見習ってほしいなと思いました。半田市の方は、子ども教

室という中で、過去開放を実施したということで、それは大変いいことだと思いますが、これからは中身と言いますか、メニューの方を充実、小平市は豊富なメニューがありますが、半田市もそういうことを考えていく必要があるのかなと思いました。宇都宮市の方は、教師の小中相互乗り入れ授業、いわゆる中１ギャップの１つの解決策として、こういう考え方もあるのかと思いました。小６と中１の間に踏み台を置くという発想をもとに相互乗り入れ授業をやっている姿は見習う必要があるのかなと思いました。もちろん現場の先生達からの不満があるということもありましたが、児童生徒の、いわゆる中１ギャップの解決というところを強く思っていけば、逆に現場からは不満がりながらもしっかりとこういうことは先生達もやっていただけるのかなと思いますので、是非これは見習うべきだと思います。

○渡辺昭司委員

小平市については、下村さんという方がおみえになる中で、その方を中心にコーディネーターとしていろいろやられているのかなという中で、こういうかたと地域が違う中でどういった人たちを、校長先生達に推薦してもらったりだとかという作業をしていただいているということなんですけど、そういった力になってもらえる方というのを見つけていくかということにやっぱり課題や問題点が大きくあるんじゃないのかなというふうに思いました。それを見つけることと、校長先生はじめ先生方がそういったことの行動をおこしていいただけるのかというとこなのかなというふうに思いました。宇都宮市ですけど、具体的な問題点を具体的に解決して言っているなと思いました、半田市もどこの学校もある程度問題視している中で、半田市も行っていただいておるんでしょうけども、より１つ踏み込んだ内容で具体的にやっておみえになるのかなというふうなことが、感じたとことです。行政とか教育委員会とか学校とかの調整をどう行うのかということもあろうかと思うんですけども、そういったことのリーダーシップを市長の公約の中での、市長が行うのか、教育長先生が行うのかということの中での両方捉えた意見として、先生方たちにどういうふうに動いてもらうかという環境づくりをするのかということが、小平市、宇都宮市を含めた中での課題なのかなと思いましたが、それをやられているという実績がありますので、是非そういったことを参考に出来る部分はした中で、そういったものが、ここまでの、すぐに取り入れたいと思いますが、一部取り入れることも含めた中でやれればな、取り入れていかなければいけないのかなというふうに思いました。

○山本博信委員

小平市は、下村さんという方が「ボランティアの方がすなわち社会の常識である」という信念に基づいてやっているということなので、大人の自覚が、素晴らしい子どもの自覚を作っていくんだなということを思いました。宇都宮市は、ほんとすごいなと。系統立てて、隙のないような計画をたててしっかりやっているなと思うんですけど、ここにも記載してあるんですけど、こういうことも必要なんだけども、学力についていけない子どもを無くすということはかなり重要なことじゃないかなと私は思ったんですけど、能力別授業だとか、能力別学級とか、一度実験してみてもいいんじゃないかなという気がしたんですけど、当局はどんなふうに考えているか、教えていただきたいと思います。

○山内悟委員

報告の部分はないので、言いたいことを言うと、上から６行目ですか、放課後子ども教

室がすごい活発だということで、そのメニューの内容もあまり無理していない。渡辺議員も高いレベルを求めていないと言っていましたけど、そういうあまり肩ひじ張らずに企画を組んでいるというところが長続きするというのが、確かにそうだなと思いました。それから、下村さんという方が教員は来なくてもいいというくらい自身を持っていることについて、すごいなと。それから、池田小学校の事件を受けて、閉鎖をするか開放するか、どちらかの道の中で、解放する道を選んでいる。半田でも亀崎小なんかは確かそうだったと思いますけど、地域の人が校庭の中を通る姿をよく見ますけど、そういうむしろ地域の人が気軽に学校に足を運んで来ることで、市民に学校を守ってもらうということについて、なるほどなと思いました。最後のところですけど、「教育に関する関心が高く、学校への協力を惜しまない気風がある」というところで、四小の校長先生のおっしゃった言葉をそのまま書いたんですけど、やっぱり地域がら大学が２つ、由緒ある大学があるということも１つの特典かなと思いました。宇都宮市ですが、みなさんもおっしゃっているとおりです。６ページ目の上から３行目ですけど、相互乗り入れ授業の成果として、ＰＴＡや児童からは評判、評価は高いんですけども、教員の中には不満があるということです。「超悪人になった」と、担当の生田先生の言葉なんですけど、そのくらいに憎まれているということです。このやり方が問題だと思うので、そういうことでは相互乗り入れは半田でもやっていると思いますけど、教員負担にならないようなやり方を模索していく必要があると思っています。最後のところですけど、半田のキャリア教育の考え方と少し違うのかなと思いました。それは、９年制の学校を作るという発想が出発点だったということです。半田の場合は違いまして、体制はそのままにしても子どもの生きる力を生活面から見る。「かかわる力」、「いかす力」、「うごく力」、「みとおす力」、いわゆる人間関係形成力や、自己理解、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力、これを高めようという幼保小中一貫教育が半田のやり方ですので、半田の方法で進めればいいと思います。小中相互乗り入れについては、研究課題です。

○山本半治委員

まず、今回小平市と宇都宮市というのは、非常に極端というか、小平市は本当に一市民の方が頑張っているということと、全小中学校でやっているということで、本当に委員長、副委員長が非常に素晴らしいところを、偶然だったかもしれませんが、選んでいただいて非常に参考になったということで、本当にありがとうございました。皆さんからほんとに意見が出ましたけど、私も小平の場合は、それこそ下村さんという方の素晴らしいお話を聞かせていただいたこと、今半田市でもやっている放課後子ども教室、あれは小平市の場合はやっている中でいかに多くの方たちに、ボランティアの方たちに教室に来てもらっているということですから、その辺が上手に半田でも募れて気楽に来ていただければ、もっともっと地域とのつながりが出来てくるのかなと。そのモデルとしては参考になると感じました。宇都宮市の方は、本当にトップダウンの重要性というか、それに先生方がいろんな問題があるにしろ、生田先生というスペシャリストのもとでやっているということは素晴らしいなと思いました。それこそ小中の乗り入れというのは非常に難しいなと思うんですけど、ああいうことも小学校、中学校の先生方がしっかり連携・連絡が取れていけばきっとうまくいけるんじゃないかと思いましたし、昨日も偶然有脇小学校行ったときに、少人数の学校の生徒さんがやっぱり中学校に行ったときに、多くの学校の方たちと接した時

に非常にギャップを感じるような話を聞きましたので、宇都宮市は小学校５年生の時に一緒の中学校になる小学校と２泊３日位でいろいろキャンプをやったりだとかもあって、前もってそういう交流をしてから中学校の生活を一緒にするとかですね、いろんなケースがあるもんですから、半田がすぐできるかどうかわかりませんけども、参考にできるものは非常にあったもんですから、是非今回勉強したことを半田の方も参考にしていただいて、できることからやっていただければなと思いました。

○澤田勝委員長

随行して頂きました教育部長、先進市である宇都宮市も半田を参考にしておったようですけど、あと山本博信委員の質問に対しても何かありましたらご回答いただければと思います。

○本間義正教育部長

まず小平市ですけど、第四小学校を見せていただいたわけですが、小平は小学校の数が多いですけど、第四小学校は特例なのかなと思いはしました。このコーディネーターの方の動きによって、こういった活動がなされているのかなということと、まず、学校が非常に協力的というのか、放課後子ども教室に関して、そこはおそらくこの組織が上手に実際に動いているのかなという思いで帰ってきました。学校経営協議会を中心に放課後子ども教室だとか、そういったところが学校、子どもたちを支援していると。この動きはまさに第四小学校の放課後子ども教室の活性化に要員があるのかなと。それから、学校が協力的なのがいろんな申し込みやなんかも学校が窓口になって受けていただけるということも聞きましたし、私どもも今指導員が非常に設定に困っているような状況ですけども、ここはメニューが多いもんですから、このメニューごとで案内を出すときに協力員の依頼も出していると。こんなことができる、何もできなくてもいいから何か協力してもらえるような人がいたらというような依頼もこういう機会に出しているというのは参考になったかなということ。もっとも第四小学校は予算が 300 万円ということですので、私どもが１校あたりだいたい 60 万円から 70 万円ですから、だいぶ規模も違うし、メニューも違うのかなというところがありました。この組織自体は私どもも将来的には使えるのかなという思いで、今私ども学校運営協議会を３校でやっていますけども、本当に地域のボランティアの募集等も始まってきていて、一番最初が宮池小学校ですけども、宮池小学校を学校運営協議会を中心とした放課後子ども教室もそういったところで一緒にやってもらえることが、私は学校支援に一番つながりやすいのかなという気持ちを持って帰ってきました。そこの中には当然学校側の意識もある程度変えなければいけないというところがあると思いますけど、学校運営協議会は当然学校も入っていますので、私どもそこを期待したいなと思いました。それから宇都宮市ですけど、ここもやはり、何といっても学力の保証と楽しい学校生活という２本立てが、一貫教育の内容は別にして、学力の保証と言っても、いい子を伸ばすんじゃなくて、ちょうど中間のところから下のところをきちんと保証しましょうというような、平等性というんでしょうかね。そういったものを中心にした一貫教育でした。やはり特徴的なのは、小中の先生の交流ということと、交流のために市が独自に教員資格を持った人を採用している。そこに約 5,000 万円程度をかけている。それと、推進主任委員の補充ということですけど、おそらくこれは学力の関係もあって、各中学校に１人ずつ入れている。併せて１億円というお金を市が使っている。半田市の５倍の中学校の数ですから、

１校当りは 2,000 万円くらいの額。ただ、年間一人 200 万円くらいですから、少し安いなという思いはありますけど、私どもが今中学校の支援員が１日５時間でだいたい 100 万円くらいですから、そうしてみるとできないことはない。ただ、それでやってくれるかどうかというのは、人材の確保はあろうかと思いますけども、小中一貫の中で、こういった形で入れておくという発想は私にもなかったもんですから、将来的なこととしては参考になるかなというところです。山本博信議員からのご質問で、能力別だとか、そういったところの授業の経過ですけども、やろうとすると保護者の理解が絶対に必要になってきます。やはり、分けてやるわけですから当然わかるわけです。クラスの中ではおそらくわかっているとは思うんですけど、それをあえて形にして表すというのは、非常に抵抗はあるのかなという思いはしていますけど、それが本当に子どもたちにとっていいというような実例があるなら、私たちも検討していかなければならないという思いはあります。

○白城智教主任指導主事

委員お尋ねの学習理解度がギャップを無くすのに有効であるという考え方は私どもも大切だなと思うところです。現実的には、習熟度別という言葉でよく使うんですけど、習熟度別も少人数指導でありまして、ＴＴ指導も少人数指導でありまして、１つのクラスを２つに分けるのも少人数指導でありまして、市内各学校工夫して行っているところです。少人数指導のための加配については、県からつくケースもあります。ただ、習熟度別は部長も言ったように、なかなか、何で分けるのかと。本人の希望や保護者の方のニーズ、本人の望むところ、いくつにわけていくのか。１つのクラスを５つにわけると、５人教師が必要になるという問題も出てくるわけであって、そうすると希望制を取ってクラスにわけていくのかどうかというクラス編成の問題と、教員の配置の問題が出てきます。そうするとクリアしていかなければいけない課題は多いかなと。一方、視点を変えて教師の相互乗り入れ授業というのは、中学校の専門の数学の先生が小学校へ行って、算数を教えるというのは効果はあるかなという考え方はできます。ただ、小学校は 45 分で毎日進んでいて、中学校は毎日 50 分ですので、日常小学校の先生が中学校へ行くかというと、時間帯が違うということで１つ課題になってきます。自分のクラスを２時間自習にしないと 50 分授業の中学校へ行けないとか、中学校でも２時間自習にしないと小学校へ行けないとか、その時の２時間分の自習のあてはどうするのかという問題が次に出てきます。ただ、そういう問題も踏まえまして、教師の相互乗り入れ授業は意味があるものだと私も考えていますので、なんとか工夫をして進めていきたいなと思っております。例えば、中学校は３月の最初に卒業していくわけで、中学校３年生の担任というのは、少し授業の時間が空きます。そういったところで入学直前の小学校６年生の小学校へ授業へ行くといったことは頭の中では可能かなと今思うところです。１度、研究、検討していきたいなというふうに指導主事としては考えています。

○加来正晴教育長

今少人数指導のやり方は、現状ですが２通りありまして、１つは 40 人いる学級に担任の先生が１人いて、少人数指導の加配の非常勤の方がそこのクラスにいて、２人で 40 人を見るパターンで取り組んでいる学校と、40 人を 20 人ずつに分けてひとりひとりで見るというパターンの２通り市内でもパターンがあります。議員がおっしゃるように習熟度別、能力別ですね。これを例えばテストの点数で、何点以上の子はこっち、何点以下の個はこっ

ち、そういうことは今指導主事が言ったとおりできませんので、希望制で、例えば基礎基本を徹底コース、それと発展的な高度な問題にチャレンジコースとか、子どもたちに選択させる。そこの中でおのずとだいたい能力、習熟度に応じたコースを選択する。中には、基礎基本をしっかりしないといけない子なんだけど、発展コースの方に来ちゃう子もいる。そこは、うまく選択を出来るように徐々に促していく、いきなり、あっち行きなさいとかそういうことは極力控えながら、自分で習熟度の応じた選択をできるようにしているということで、形の上では希望制ですけど、実質は習熟度別というようなことを取り組んでいる学校も現状はあります。

○山本博信委員

習熟度別の選択別クラスですよね。やっているところがあるというのは、半田市はどこなんですか。やらないところは、どういう理由でやらないのか。

○加来正晴教育長

ちょっと今手元にどこがということはないですけど、最初に申し上げた２人で 40 人を同じ教室で見るパターンと、分けてやるところとあるので、分けてやるところは習熟度別を意識した編成ですけど、これはあくまで希望制と。

【発言する者あり】

○本間義正教育部長

ちょっと今手元に資料がありませんので、後日お知らせします。

○山本博信委員

習熟度別でやるのも下の方の子の底上げが一番大事だと思うんですよね。できる子はできる子でしっかりやっていくと思います。底上げのためにも習熟度別ということをしっかりとやっていただきたいなと。半田市の教育の底上げのためにもやっていただきたいなと思って聞いたんですけど、どうなんでしょうか。

○加来正晴教育長

各学校によって状況が違いますが、比較敵前たとして学力が芳しくないところは、教育現場は二極化で上位の子はいいです。分布で見ますと、ふた山、下の方でひと山、上の方でひと山。二極化していますので、今おっしゃられるように下の方の子たち、基礎基本をきちっと身につけさせなければいけないところについては、最終的には個別指導で今やっていますけども、効果的な指導を研究しております。

○山本博信委員

底上げということですけど、是非計画を練ってやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○澤田勝委員長

本題に戻りまして、行政視察の意見集約ということですが、それぞれ各委員の皆さんからポイントや、加えての発言や感想をいただきましたけど、それぞれの委員同士、ご質疑等ありましたら、ご意見をいただきたいなと思います。いかがでしょうか。

○山本半治委員

ちょっと教育委員会の方に聞きたいんですけど、宇都宮市は部長もよくご存知のとおり、生田先生という方が行政にみえて、その方がいろいろ提案して一貫教育ができたという話を聞いて、だけど、半田市も現実には幼保小中一貫教育という形で、モデルを作ってやっ

ているよという話の中で、半田市は先生方がいろんな話の中でああいうものを作ってくれたということで、僕も非常に素晴らしいなと思ったんですけど、大事なことは、それが本当にやる方と、学校の方のしっかりした地域も入れてよくしていこうというもでないといけないと思うんだけども、ちょっと心配だったのが半田市の地域の方たちもかなり入って、半田市の場合、小中一貫のこの間もらった冊子みたいのができていったのかなということがお聞きしたかったんですけど。

○本間義正教育部長

私どもが作った冊子、あの経緯としては地域の人には入っていただいたことはありません。教員、保育士等で作っておりますので、地域の意見はその中に入っていませんけども、私どもはキャリア教育を縦軸にしていますので、当然キャリア教育となると、地域の方々のご支援やご協力が必要になってくるので、話がちょっと横にずれるんですけど、先日市政懇談会が成岩であったんですけど、その時にもキャリア教育に関して、地域の人が意外とキャリア教育のことよくわからないこともあるわけで、その辺を何かいい方法がないかというご質問というかご要望も出てきているので、それについては私どもも学校や保護者だけじゃなくて、地域の人達にもこういうことをやっていますのでということの周知もしていきたいなと思っているところです。

○山本半治委員

宇都宮行ったときに、生田先生は現場の先生方からは非常に厳しい目で見られていると。あの段階でその辺で出てくるというのは、先生方の負担になるわけだからそれは当たり前だと思うんだけど、厳密に言えばその小学校と中学校の交流なんかも、長い目で見てみれば絶対重要なことだと思うんですよね。だけど、半田市の現状というのは、そういうような話は出なかったんですか。

○本間義正教育部長

ご存知のように私たちは、中学校区で連絡会を作っていますので、そこの中でそういう話はしています。まだ一部ですけども、中学校の先生が小学校へ出向いている。その逆はまだ今ないです。中学生が小学校へ出向いて指導を行う。そういった動きも出てきています。ただ、私どもは宇都宮の様に、そのための教員資格を持った人を配置しているわけじゃありませんので、そこが違うということがあるかもしれませんけど、無理のない範囲内ではやっていこうという考え方を持っています。

○山本半治委員

本当によくやっているということがよくわかりました。さっき先生の話の中で、どうしてもお金のことがあるから、お金が出ないためには先生方が、小中学校で卒業時期がずれるから、その時間でということで、それは先生達への優しい考えだと思うんだけど、将来のことを思ったら、本当なら休みの状況よりも、できることなら普段から交流していた方がいいと思う。それで、お金のことに関しては議会としても重要なことならしっかり提案していかなければいけないのかなというふうに思いました。その辺はちょっと意見を伺いたい。

○本間義正教育部長

私どもが一貫教育をやるようになってから、先ほど言ったように学校連絡会というのをやるようになって、小学校と中学校の先生が非常に仲良しになってきています。今までは

どうしても小学校の先生から見ると、小学校の時はあんなんじゃなかったのに、なんで中学校に入ると不登校になっちゃうのかとか、その逆で、小学校内にきちんとやれえないからこんなふうになるというような考え方を持って、やはりそこの中にハードルもあったんですけど、一貫教育をやるようになってからそういったところも解消されてきて、非常に先生方が仲良しになってきたというところも明るい材料なのかなという思いはしています。

○山内悟委員

関連してさっき委員長からも先に紹介があったように、宇都宮市の生田先生がこれを見て、かえって勉強になったと言われました。半田方式の４，３，３，２制のプログラムというのは、レポートにも書いたように半田のやり方でいいと思うんです。学校運営協議会を宇都宮市は経営協議会と言っていますけども、その協議会を今モデル校３校でやっていますけど、今後いつの段階で全校に広げるとか、今後の日程はどのようになっているんでしょうか。

○本間義正教育部長

今年までがモデルの期間ですので、来年度以降これが増えるかどうかというところですけど、今のところですが、私ども教育委員会から強制的に全校やりなさいというような進め方は考えておりません。学校から自主的にモデル校見て、あるいは発表のような形でやらなければと思っているんですが、そういうのを見て、やはり手あげ方式じゃないと、強制的というのは絶対に続きませんので、今のところ来年すべての学校でできるとは私思っていません。これが 10 年かかるかどうかもわかりませんけど、ところどころでは学校運営協議会についてのことも、校長会等で話題にしていきたいと思っていますので、今計画的に、この年に何校というようなものはございません。

○山内悟委員

私も実はそう思っていて、やはり人材発掘とか、下からわき立つ声が無ければ続かないなと思っていて、ただ宇都宮市の場合は上から強制で、相互乗り入れについては。だから不評が多いんですけど、そういうやり方もあるのかなと思いながら、今半田のモデル校３校の拡大についてどうかなとお聞きしたんですけど、実際小平市の放課後子ども教室見ると人材が先だなと思ったし、ちょっと両極端だったのでどうなのかなと思ってお聞きしました。

○本間義正教育部長

一貫教育と学校運営協議会というのがどういうふうに結びつくのかなというのが、私の頭の中では想像が難しいんですけど、子ども教室と学校運営協議会は結びつくと思うんです。そういった意味で、先ほど私が申し上げたことであって、放課後子ども教室を本当に市がやっているんだけど、そこはやっぱり学校運営協議会の行事というか、そういった中でやっていただけることが、地域の人達が子どもたち、学校を支援するという形が本当に進むのかなと、これは私の思いですけどこれは先ほど申し上げました。

○加来正晴教育長

一貫教育は目的ではなくて手段です。半田市は。あくまでもキャリア教育の推進ということで、そのために幼保小中の一貫ということを推し進めていきたいと。今学校運営協議会は３校やっていますが、学校は教員だけで子どもたちを指導するだけに、例えば交通立哨とか、環境整備だとか、読み聞かせだとか、いろんなところで支援をいただいているそ

れは今たまたまいろんな団体が、例えば老人会だとか、それらを組織化して例えば子どもを見守る活動については、ここの組織、子どもの学習のサポートをいただくのはこの組織、そういうようなのを今半田小学校も宮池小学校も組織化して、たくさんの方たちが登録してくれている。人材の確保は、学校運営協議会を通じて行っています。そこで人がある程度継続性を持って、たまたまこの年は人がいるからやれた、この年は人がいなくて出来なかったじゃいけませんので、ある程度一定の人数を登録して頂いて、毎年同じようにやっていけるようにして、そのうえでやることはキャリア教育。いろんな支援をしていただくというようなことで、すべてを繋げていくという構想を描いています。

○澤田勝委員長

他にございませんでしょうか。

○岩橋平武学校教育課長

皆さんの報告書を見させていただいて、皆さんが書いていただいているように、宇都宮市なんですけど、平成 21 年から平成 22 年に不登校が 3.3 倍増になってしまっている。皆さん書いているように、すごく分析してその結果この一貫教育というのが、小中の一貫教育ということなんですけど、数値を分析して中１ギャップの解消のためにこれは絶対必要だと思います。半田市のように、幼保小中一貫教育とちょっと成り立ちが違うかなということを非常に感じて、それで山内委員さんが言うように、宇都宮の方が参考にしたいと、半田市は幼稚園と保育園から小学校にあがるところで先生が行って、教育長先生がよく言ってくれるんですけど、言葉遣いやなんかも先生が覚える、子どもに対する話し方を小学校の先生が覚える、それから特に半田市の目的の１つだというように違いがあるということと、もう１つ平成 21 年から平成 22 年に 3.3 倍というのは、きっと大きな何かがあったのかなと。不登校ということであれば、宇都宮はどうも先生方がちょっと協力的じゃないというか、ちょっと反発もあるようですけど、半田市はむしろ先生方がすごい危機感を持っていてくれるので、乗り入れ授業等をやってくれていて、現実に不登校は今年思わぬ数字が出るくらい減ったものですから、背景の違いがあるということを、ちょっとレポートだけ読ませていただいて感じました。

○澤田勝委員長

他にございませんでしょうか。

【発言する者なし】

ないようですので、このように今日いろんな意見を出していただきまして、今後まとめていくための今日は意見集約ということで、今後またこれを副委員長と確認しつつまとめていく段階にとどめたいなと思っておりますので、ご承知置き願いたいと思います。それで次の協議題に移っていくわけですけど、今後の方向性ということで、小平市と宇都宮市に視察した中で、それぞれ参考にする点ですとか、課題も少し見えてきた気もしますけど、あとは、もう少し絞り込んでいきたいということと、新たにこういった違う視点から見たい、こういった視点から見るべきじゃないかなど、そのような意見を少し、今後の方向性ということで各委員の皆さんからご意見をいただければなというふうに思っています。それにともなって、県内視察や場合によってはもう少し県外も視野に含めた先進地の視察も含めて、今日ある程度方向性を少し絞ったうえで新たにもう１箇所２箇所行きたいなと考えています。正副委員長である程度の素案も持っていますけど、今日こういった各委員の

意見、方向性を聞いたうえで改めてもう一度先進地を見たいなと。それと決して半代ｓの今の幼保小中一貫教育が、ある意味進んでいるのかなと感じる中で、改めて視察に行くわけではありませんけど、今の半田市の現状もどこかのタイミングで時間を作っていただいて、教えていただきたいなと思っておりますので、それが今後もう一度行う県外視察、県内視察以降になるのか、前後するのかわかりませんけどそういった時間をつくってやりたいと考えていますので、よろしくお願いします。それでは、今後の方向性ということで、各委員の皆さんから今回見ました乗り入れ事業等をもっと調査するべきだとか、どんな意見でも結構ですので、方向性についてご意見いただければと思います。それでは、副委員長からお願いします。

○鈴木幸彦副委員長

今後の視察先も含めてなんですけど、今回見せていただいた２つの市は、ほぼ現在進行形であると同時に、完成されているようなものなのかなと思って、こういう市へ視察に来る各市町があると思いますが、私たちの半田市と同じように、じゃあということで立ち上がっている途中段階というか、そういう市町の視察が出来たらいいのかなというふうに思います。要するに完成されているものは市の規模だとかいろいろ違いますし、参考になるところは多いですけど、ちょっとこれは無理だなというところもあるんですけど、取り組んでいるところが探せたらなというふうに思っています。

○竹内功治委員

方向性といいますか、視察先もそうなんでしょうけど、先ほど部長もお話しされていましたが、やはり放課後子ども教室の今後の運営の仕方というのは、運営協議会でしょうかそういうような形で、地域も支援につながるような放課後子ども教室の運営の仕方をしているような自治体が他にあれば是非見てみたいなと思いました。あと宇都宮市の相互乗り入れ授業はやはり参考になると思いますので、こういうことを取り組んでいるような自治体があれば是非とも見てみたいと思います。

○渡辺昭司委員

さっき委員長が言いましたけど、宇都宮市とかは具体的な状況や問題点というのを把握した中での取組みになっているというようなことで、ちょっと自分たちがこのテーマに取り組む中での半田の現状というのをちょっと自分たちできちっと把握が出来ていないので、本来視察に行く前の方がよかったのかなというのは別の話として、今からそういったことを少し当局の方にもよく教えていただいて、実際に自分たちの感覚の問題点とか当局の方や学校側が思っている問題点というのをお聞きしたいなと。その中でどこか行けるようなところがあれば、そういった視点で探していただけると、県内外、ありがたいのかなというふうに思います。

○山本博信委員

私も渡辺委員と一緒で、教育長先生が掲げられた幼保小中一貫教育、キャリア教育が腹に落ちてないんですよね。はっきり言って。一度集中講義をしていただきたいなと。それによって視察先も考えたいなと思います。それとプラス、先ほどちょっとお願いしたんですけど、習熟度別授業を半田市もやっているということなので、是非それも付け加えていただければありがたいなと思います。

○山内悟委員

半田の目指すキャリア教育が、僕も最初はわかんなかったんですけど、この前の成岩小学校の１年の成果で愛教大名誉教授の神谷先生の話を聞いて、なるほどそういうことかと思って、恥ずかしながらその時はじめて理解が出来て、だから宇都宮市との違いがよくわかったんです。まだ半田市もそれを実践中で、まだ１年半やっている途中ですので、今まだどこを参考にというところはないもんですから、ただ先ほど言った相互乗り入れで半田の場合は、幼稚園と小学生はやっているもんですから、そこの現場を一度見たいなと思っているんです。それで、実は阿久比が同じことをやっていて、幼稚園の先生が小学校に来て教えるというか、小１プロブレムの対策だと思うんですけど、やっていると聞いて、しかもわざわざそれがテレビで紹介されてたんですよね。偶然見たんですけど。半田もやっているなら、半田も紹介してくれてもいいんじゃないかと思ったもんですから、半田の現場とあまり遠くない視察ですけど、阿久比もちょっと見てみたいなと思いました。

○山本半治委員

小平市の、例の池田小学校のあとの学校を開放して地域の方の協力をいただいて安全確保をしていきたいという話を聞いたときに、素晴らしいなと。もちろんみなさんそうだと思うんですけど、そんな形で僕も途中から、学校というのは地域の方が行けなくなってしまったというのは非常に感じてまして、それを思ったときに、今半田市の放課後子ども教室で地域の方に来てやっていただいている。これはやっと小学校で形が出来たところなんですけど、まだまだ地域の方たちに多く来ていただくことが本当は自然に地域とのふれあいと思うものですから、そんなようなどこか近くで、もうちょっと子ども教室を活発にやっているところがあれば、その辺もみたいなというふうに思っています。

○澤田勝委員長

ありがとうございました。教育部長、何かありますか。

○本間義正教育部長

方向性ですけど、今渡辺委員が言われたように、半田市の実態と課題をというものを見つけないと、報告書作るときに落とし所が見つからないものですから、そこは絶対必要なのかなという思いはありました。それによって、視察先は決めていけばいいと思います。近いところでは阿久比町は幼保小中やっていますし、学校運営協議会については一宮市が全校でやっていますので、県内ではそういったところがありますし、県外でも京都くらいなら無理しても日帰りで行けますよね。京都は一貫教育で先進で、奈良も一貫教育を推進しています。ホームページ探すとヒットしてきますので、奈良はどうも近々発表もあるようです。そのような状況もありますので、ただやはり半田の目標、目的と他の市町の一貫教育で、一貫教育は種類がいっぱいあるもんですから、そこをきちっと間違いなくやらないと、いくら研究してきても半田では使えないというような形になろうかと思いますので、その辺は慎重に行きたいと思います。

○澤田勝委員長

ありがとうございました。私も少しだけ加えさせていただきますと、宇都宮市のところでも記載させていただいたんですけど、この土曜授業、宇都宮市もやっているということで、土曜授業についてということを少し。やっぱり地域との関わり、地域力を活かすためには、当然放課後の時間帯ですとかを活用するのはもちろんなんですけど、やはり先生方の地域力を活かしているところも平日の時間も活用しているんじゃないかなと思うのと、

冷静に考えれば、この土曜日というのは、スポーツクラブ等々でやっているわけですから、そういったものを位置づけるような形でもいいのかなと。いろいろちょっと思いがある中で、土曜授業も少し参考になるような地域があればいいなというのは、ちょっと思いはあります。そういったことを加えさせていただいて、今各委員の皆さんからいただいた、部長も言われましたけど、この意見を集約しまして、できれば視察に行く前に半田市の現状を、改めて半田市へ視察に行って、お聞きしたいと。あと、現場の先生の本音を確認したうえで推進したいという意見もありまして、どこかで先生との意見交換ももう少し我々の腹に落ちた段階で、先生とも意見交換が出来たらなと考えています。今ご意見等頂いたことを集約して、スケジュール等も組みながら進めていきたいなと思いますけど、これについてご意見、ご異議ありませんでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

ありがとうございます。それでは協議題（２）、（３）をまとめて進行してしまいましたけど、今後の方向性について、少し正副委員長でしぼりながら、平行して改めて半田市の現状を学びたいということと、それに伴い必要があれば、僕は必要だと思っていますので、近隣、少し遠方も含めた視察もスケジュール等組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、協議題１の閉会中の調査事項については、この程度にしたいと思います。協議題２、その他にうつります。その他なにかありませんか。

○山本博信委員

この前の中日新聞、10 月 24 日の新聞なんですけど、全国学力テストについていろいろ書いてあるんですけど、半田市の考え方と対応をいかがなものか、次回お願いしたいと思います。

○澤田勝委員長

今山本博信委員の方から１点、過日の新聞に全国学力テストの公表についての半田市の考え方について、ということでいただきました。次回、当局の方からご回答いただければと思います。よろしくお願いします。

○山本半治委員

先日教育委員会の方からインターネットで南吉教育の発表が 11 月の 12 日くらいから各小中学校でやられるという連絡が入りましたので、私もできる限り、時間があれば行きたいなと思っていますので、皆さんも。

【発言する者あり】

全小学校でやっています。だいたい１日位かけて。

【発言する者あり】

○岩橋平武学校教育課長

11 月 12 日から 16 日、もうホームページにもアップしています。南吉ウィークということで、各小学校で、これまでの成果等を発表します。そういった案内が。これ以上は、今日資料持っていなくて申し訳ないです。

【発言する者あり】

○加来正晴教育長

土曜日に開催する学校ですけど、半田、さくら、乙川東、亀崎、有脇、成岩、板山、花園の８校です。残りの５校については、平日開催です。

【発言する者あり】

○澤田勝委員長

今、情報提供ということで11月12日から16日に南吉ウィークということで、各小学校で行われるということですので、あえて委員会でということではなく、各委員でご参加いただきたいということで、お願いいたします。他にございませんか。

○白城智教主任指導主事

明日阿久比町で、幼保小中一貫教育の発表会がありますので、今ちょっと資料を持ってきますけど、終日ですので、間もなく資料が届くと思います。

【発言する者あり】

ただ、１つの学校で集中してやる感じではなくて、各園であったり、中学校であったり小学校であったりということで、園や学校によって時間帯が違うかもしれませんので、今要綱が届きますので、終ってからでも見ていただければと思います。

○澤田勝委員長

阿久比の幼保小中一貫教育の発表会については、後ほど情報提供をいただきますので、これについても各委員でご参加いただくということでお願いいたします。他にございませんでしょうか。

○岩橋平武学校教育課長

亀崎幼稚園についてです。特に実は今特別に報告することはないんですけど、現状だけ伝えさせていただくと、先日定例教育委員会がありまして、これからはいわゆるソフト的なことというか、中の事業について、例えば預かり保育をどうしていくかとか、土曜や夏休みをどうするかだとか、そういうことについてきっちりつめております。それから、図面につきましても、今平面図、12月20日までには設計業者と調整しながら、つめていくところです。11月12日と12月３日が全協が予定されているんですけど、そのどちらかでは、中間報告ということで、またご報告をさせていただきたいと思っています。また11月中、11月の終わりから12月頃になってしまうかもしれませんが、地域の方での説明会もやりたいと今思っています。またそれは、具体的なことが決まりましたら、またご連絡をさせていただきます。何にも資料の無いところの中間報告ですが、そのように考えていますのでよろしくお願いします。

○澤田勝委員長

他にございませんか。

【発言する者なし】

無いようですので、これを持ちまして文教厚生委員会を閉会します。

午前１１時０８分　　閉　会